

# 令和元年度 国民体育大会(少年の部)札幌支部中学生予選

## 開催要項

- 1 主催・主管 札幌ソフトテニス連盟 中学部
- 2 日 時 令和元年 7月15日(月・祝) 男女予選  
8:45 受付終了 9:00 競技開始
- 3 会 場 円山公園テニスコート (5~12コート)
- 4 競技 規則 日本ソフトテニス連盟 「国際競技規則」に準ずる
- 5 試合 方法 男女とも トーナメント方式 5ゲーム
- 6 参加 資格
  - ・平成16年4月2日~平成17年4月1日までに生まれた者  
(それ以外に出場権はありません。オープン参加は認めません。)
  - ・審判員としての実力を有していること。
  - ・札幌市内の中中学生であること。
  - ・各校、男女各6ペアまでとする。参加希望ペアが多い場合は、校内で選考を行うこと。
  - ・指導者および当該学校の教員が監督となり、引率すること。
  - ・本大会上位の男女各4組を国民体育大会少年の部道予選 8/8(木)~10(土)  
(旭川花咲公園テニスコート)の札幌支部代表として推薦する。この大会に参加する選手は不測の事態が起こらない限り、北海道予選に出場することを前提として臨むこと。(補充などは行わない)
7. 予選免除選手 なし
8. 参加料 1組 1000円
9. 参加 申込 2019年7月5日(金)までにホームページ上で入力すること。  
ホームページ『中学校ソフトテニス部 in札幌』アドレス

<http://tennis.news.coocan.jp>

※ご質問・ご意見等連絡先

札幌ソフトテニス連盟中学部 札幌市立中の島中学校 鈴木 直

TEL 842-3601 Fax 842-3604

**第 74 回国民体育大会ソフトテニス競技北海道ブロック予選会**  
**兼**  
**北海道体育大会（少年の部：ダブルス）**  
**開 催 要 項**

1	日 時	2019年8月8日（木）～10日（土） 受付終了8時30分 受付終了後開会式
2	会 場	旭川市花咲スポーツ公園テニスコート（旭川市花咲町1丁目） オムニ 18面 Tel (0166) 53-4084
3	主 催	公益財団法人 日本スポーツ協会 公益財団法人 北海道スポーツ協会
4	主 管	北海道ソフトテニス連盟（強化委員会）、北海道ソフトテニス連盟高校部 旭川ソフトテニス連盟
5	後 援	スポーツ庁・北海道
6	種 目	少年男子・少年女子 ダブルス
7	大会使用球	ケンコーボール
8	競 技 方 法	(1) 別添『2019年度国民体育大会道予選会実施要領』及び『国民体育大会北海道代表選考規程』に基づき実施する。 (2) 7ゲームマッチ (3) ルール等は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟（以下、日連という）ソフトテニスハンドブックによる。
9	参 加 資 格	(1) 平成13年4月2日以降平成17年4月1日以前に生まれた者 (2) 日本国籍を有する者とし、本ブロック予選会への出場資格を得た者 ただし、日本国籍を有しない者は、学校教育法第1条に定める学校に、申込時、1年以上継続して在籍する生徒であれば良い (3) 居住地を示す現住所が北海道内である者、又は勤務地が北海道内である者、又は学校教育法第1条に規定する学校に在籍している場合には、学校の所在地が北海道内にある者 (4) 国民体育大会本選への出場意思があり、審判ができる者 (5) 平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれ（中学3年生）の者は20ペア出場できる（道連中学部が選考し、道連高校部に申込み） ※参加に際してはベンチ入り指導者等、高校の適用ルールを把握して守ること。
10	申 込 期 限	2019年7月17日（火）
11	参 加 料	1ペア7,500円（道連大会参加料2,500円＋日体協負担金5,000円※下記参照） （上記参加料には、1名あたりの日体協参加者負担金1,500円及び日体協傷害補償制度負担金1,000円の合計2,500円を含みます。（ペアで合計5,000円）
12	参 加 割 当	(1) 各支部には原則として、少年男・女別に会員登録30名につき1組の割合で参加数を割り当てる。 (2) 別紙『指定シードペア』については地区予選を免除するとともに、前述の各支部割当の枠外とする。
13	申 込 方 法	日本連盟、会員登録システム（メニュー画面の支部大会申込み画面）より申込すること。参加料もシステムで行い、期限までに入金すること。 注意：同一団体から複数の選手が申込みの場合は、団体（チーム）毎に取りまとめのうえ、選手を入力すること。
14	参 加 選 手 留 意 事 項 参 加 選 手	(1) 所定の時刻までに受付を完了し、開会式には、必ず出席すること。 (2) 日連指定のゼッケンを着用し、四隅を止めること。

留意事項 つづき	<p>(3) ラケット（公認マーク添付）、シューズ、ユニフォームは、日連が公認したメーカーの製品を使用（着用）し、当該年度の日連の「ユニフォーム等の着用基準」を遵守すること。</p> <p>(4) 日連会員登録証（登録会員）、公認審判員ワッペン及びイエローカードを携行し、審判を担当するときは、原則ワッペンを左胸に着用すること。</p> <p>(5) ベンチ入り指導者もテニスの服装とする。</p> <p>(6) 引率責任者は当該校の教員とする。ベンチ入り指導者は学校長の認めた教職員とし、2名まで認める。出場ペア数が1ペアの場合は、1名とする。指定シードペアについては、強化委員会スタッフがベンチ入りすることができる。なお、ベンチ入り可能なのは1次予選までとし、それ以降のマッチでは、全ての指導者を対象に一切認めないこととする。</p> <p>(7) 優勝者は必ず「持ち回り優勝杯」を持ち帰り、次年度の大会時に整備のうえ、責任を持って当該校の選手が返還すること。</p> <p>(8) 荒天の場合等の大会の取り扱いについては、当日会場で、受付時刻までに発表する。</p>
-------------	--

この事業は、競輪の補助を受けて実施しています。

競輪の補助事業



【別表】

### ユニフォーム等の着用基準について

(平成30年6月10日改訂)

ソフトテニス競技者は競技会において、マッチ中は本連盟の公認するメーカーのユニフォームおよびシューズを着用するものとする。ただし、大会主催者が認めた場合にはこの限りではない。

1. ユニフォーム

男子の場合、ゲームシャツと裾が膝より上のパンツ、女子の場合、ワンピースまたはゲームシャツと裾が膝より上のパンツ、スカートとする。

※Tシャツ、ジーンズはユニフォームとして着用できない。

2. シューズ

テニスコートを傷つけないテニスシューズとする。

3. その他

マッチ中に使用する物品については、本連盟が認める場合（注1）を除き本連盟が認める範囲（注2）を超えて企業名、商標など広告とみなされる表示をしてはならない。

（注1）「本連盟が認める場合」とは、主に競技会の協賛会社を競技会主催者がゼッケン等に表示する場合。

（注2）「本連盟が認める範囲」とは、メーカー等の企業名、商標等のロゴで12cm平方以内のもの、各製品それぞれ2箇所以内の表示とする。ただし、シューズについては箇所制限をしない。

《ウェアに関する特例》

(1) オーバーウェア及び長袖スポーツシャツ、セーター等の着用については、大会主催者が認める場合のみ着用可能とするが、ゼッケンは最上衣服に貼付すること。

(2) アンダーウェア（長袖を含む）及びスパッツの着用については、単色の製品を原則とする。

## 2019年度 国民体育大会（茨城県開催）少年男女北海道予選会実施要領

北海道ソフトテニス連盟強化委員会

### 1. 開催日時

種 別	試 合	日 時
シングルス	1・2次予選	6月15日（土）午前8時30分受付終了、9時試合開始
	最終予選	6月16日（日）午前8時30分受付終了、9時試合開始
ダブルス	1次予選	8月8日（木）午前8時30分受付終了、9時試合開始
	2次予選	8月9日（金）午前8時30分受付終了、9時試合開始
	最終予選	8月10日（土）午前8時30分受付終了、9時試合開始

2. 開催会場 シングルス：苫小牧市緑ヶ丘公園庭球場  
 ダブルス：旭川市花咲スポーツ公園テニスコート

### 3. 選考方法

#### (1) ダブルス

「指定シードペア（代表候補選手）」は、地区予選を免除。（各支部割当て枠外とする）  
 該当するペアの選手変更は一切認めない。ただし、上記権利取得後に地区予選に出場した場合は（ペア変更を含む）は、権利を消滅する。中学3年生の取り扱いは、例年通り道予選会の1次予選（初日）から20ペアに限り出場を認めるものとする。

- 1次予選（初日）
  - ・トーナメント又はリーグ戦により4ペアを選出する。
- 2次予選（2日目）
  - ・上記4ペアと指定シードペア（代表候補選手）8ペアを、A・Bブロック各6ペアに分け、総当たりリーグ戦（1回）により、A・Bブロック各上位2ペアを最終リーグに進出させる。
- 最終予選（3日目）
  - ・上記4ペア（監督推薦ペアがある場合は5ペア）により、総当たり最終リーグ戦（1回）を行い、トータルポイントで上位のペアから順に代表ペアとして内定する。

#### (2) シングルス

シングルスは、競技者育成プログラムと連動し、参加基準を設けて以下の通り実施する。

- 1次予選（初日）
  - ・U17step2該当選手（中学3年生含む）及びU20step2該当選手（高校3年生対象）を対象としてトーナメント又はリーグ戦により上位4名を選出する。
- 2次予選（初日）
  - ・1次予選上位4名にハイスクールジャパンカップ南北予選上位各1名及び北海道高校新人戦（シングルス）上位4名（ベスト4）を加えた最大10名を、2ブロックに分け、総当たりリーグ戦（1回）により、各ブロック上位3名を最終リーグに進出させる。
- 最終予選（2日目）
  - ・2次予選上位6名により、総当たり最終定リーグ戦（1回）を行い、トータルポイントで上位の者から順位を決定する。なお、ダブルスの選考を優先とするため、この時点ではシングルの内定候補者として位置づけ、ダブルスの選手選考が確定した後にシングルの代表選手を確定させる。

#### ■注意事項

1. ダブルス及びシングルスで内定となった選手が辞退をする場合は、それぞれの予選会で次点となったペア（ダブルスの場合）又は選手（シングルの場合）を繰り上げて内定とする。
2. 代表となる選手は、監督の指示により、ダブルス、シングルのいずれかにも出場することに承諾しなければならない。（代表選手は、事前に承諾書の提出が必要となる。）
3. ベンチ入り指導者について ①シングルスでは認めない。②ダブルスでは1次予選は認めるが、それ以降のマッチでは認めない。
4. 参加数及び当日の天候等、特別な事情が生じた場合、上記の試合方法を変更することがある。

# 「国民体育大会北海道代表選考規程」

1. 少年男女、成年男女の監督・コーチは、強化委員会が推薦し、国体代表選考委員会の承認を経て、理事会で審議・決定する。
2. 代表選手の選考は、以下に示した基準（注①）に該当したペア（同一ペアに限る）を「国体代表内定ペア（1ペア）」とし、予選会を免除する。  
 なお、対象が2ペア（ダブルス）以上となった場合は、国体代表選考委員会で協議した後、道連理事会で最終審議・決定を行う。※少年のシングルスについては、別に定める。
3. 上記2以外の代表選手選考会は、「国体道予選会実施要領」に基づき、大会要項に定めるペア数（シングルスは選手）を選考する。  
 なお、最終リーグの順位は「ソフトテニスハンドブック大会運営規則第3章競技大会第10条」により決定する。
4. 代表選手5名の他に補欠選手を各種目1名に限り置くことができるものとする。補欠選手の選考基準は、以下に示す注③の通りとし、強化委員会の承認を得て、道連理事会で審議・決定する。
5. 国体代表選考委員会は、上記により選出された選手のほか、強化委員会から推薦された監督・コーチ・補欠選手の選考について審議する。また、選手（補欠含む）及び監督・コーチに欠員が生じた場合には、速やかに強化委員会と協議し、補充の選考をしなければならない。
6. 上記による選考結果は、国体道予選後の道連理事会で正式に発表する。
7. 監督・コーチ・選手（補欠含む）は種目を問わずに一致団結し、常に北海道代表としての自覚と品位を保ち、競技力の向上に努めなければならない。  
 なお、これらに反する行為があった者、または、そのような行為を看過した者は、国体代表選考委員会の審議により、北海道代表の資格を失うことがある。
8. 国体代表選考委員会は、必要に応じて理事長が招集する。なお、委員は次のとおりとするが、審議の際には、会長（代理又は委任可）、副会長（2名以上）、理事長、副理事長（強化委員長を含む2名以上）の出席を要す。  
 ※委員：会長、副会長、理事長、副理事長

## 注①：少年男女における「国体代表内定ペア・選手」

ダブルス（同一ペアに限る）	シングルス
○当年度全日本高校選手権 上位8ペア ○当年度ハイスクールジャパンカップ上位2ペア	○当年度ハイスクールジャパンカップ上位4名 ○全日本シングルス選手権 上位8名 ただし、ダブルスを優先として代表選手を決定するため、上記に該当する選手は、内定候補として、シングルス予選会を免除し、シングルス予選会の1位以上の順位として取り扱う。

## 注①：成年男女における「国体代表内定ペア・選手」

ダブルス（同一ペアに限る）	シングルス
○前年度東・西日本選手権（一般） 上位8ペア ○前年度全日本学生選手権 上位4ペア ○前年度全日本社会人選手権（一般） 上位8ペア ○前年度全日本選手権 上位16ペア	なし

## 注②：少年男女における「指定シードペア・選手（2次予選）」

ダブルス	シングルス
○代表候補選手 男女各16名 ※北海道高校新人戦、北海道高校インドア大会、北海道高校選手権等及び中学の各種大会結果も考慮し、高校部の推薦に基づき、強化委員会が最終的に承認し、指定シードペアを選出する。	○ハイスクールジャパンカップ南北予選会 上位各1名 ○北海道高校新人戦 上位4名（ベスト4） ○高校部強化委員推薦 4名以内

※ なお、少年男女の監督が予選会の前に確定している場合には、男女ダブルス1ペア、シングルス1名に限り、監督推薦として最終リーグ（特別シード）から出場させることができる。  
この場合も強化委員会の承認を必要とする。

**注②：成年男女における「指定シードペア・選手（最終予選）」**

ダブルス（同一ペアに限る）	シングルス
○当年度北海道春季選手権（一般） 優勝ペア	○当年度北海道シングルス選手権 上位2名
○前年度北海道選手権（一般） 上位2ペア	○当年度全日本シングルス選手権 上位16名
○前年度東・西日本選手権（一般） 上位16ペア	○当年度全日本学生シングルス選手権 上位8名
○前年度全日本学生選手権 上位8ペア	
○前年度全日本社会人選手権（一般） 上位16ペア	
○前年度全日本選手権（一般） 上位32ペア	

**注③：補欠選手の選考基準**

少年男女	成年男女
ダブルス及びシングルス予選会における次点選手から監督・コーチの意向を踏まえ、選考する。	ダブルス及びシングルス予選会における次点選手及び当年度の全日本シングルス選手権、北海道春季選手権、北海道選手権、東日本選手権、全日本学生選手権で上位入賞した選手の中から監督・コーチの意向を踏まえ、選考する。

**■改正内容**

- 平成12年1月22日理事会：補欠制について  
補欠選手を認めず、選手変更を要する非常事態の場合出発前は国体代表選考委員会で、出発後は選手団の総監督に委ねることとした。
- 平成14年5月25日理事会：国体代表選考委員会について  
委員については、会長、副会長、理事長、副理事長とし、審議の際は、会長（代理含む）、副会長（2名以上）、理事長、副理事長（強化委員長を含む2名以上）の出席を要することとした。
- 平成18年6月10日理事会：国体代表内定組の取り扱いについて  
国体代表内定基準を作り、その対象組が複数生じた場合の取り扱いを明記した。
- 平成26年3月1日理事会：監督・コーチの決定について  
国体の監督・コーチは、強化委員会が推薦し、国体代表選考委員会の了承を経て、理事会で審議・決定することとした。
- 平成27年3月7日理事会：補欠選手の選考及びシングルの導入に伴う変更  
シングルの導入に伴い代表選手が5名（ダブルス4名、シングルス1名）になることから怪我による選手変更や練習パートナーなどの問題に対応出来るように補欠選手を1名置くことにしたほか、シングルの選考に関わる事項を明記した。
- 平成31年3月2日理事会：シングルの予選会における2次予選からの出場選手枠の変更  
シングルの予選会における指定シード選手をハイスクールジャパンカップ南北予選会上位各1名、北海道高校新人戦上位4名（ベスト4）、高校部強化委員推薦4名以内に改めた  
項を明記した。